



先進産地の取組実態からみる野菜産地支援のポイント

【1 成果の概要】

先進産地の取組実態調査等を通じて、野菜産地や経営体が維持・発展していくために必要な産地支援の6つのポイントを下表のとおりまとめました。

支援のポイント	具体的な取組事項
ア 現状把握・分析に基づく産地目標設定	1) 生産・出荷データ、アンケート調査等、 データに基づく産地の現状把握・将来予測、課題の整理 2) 産地のありたい姿、目指すべき姿 を目標や評価指標として設定 3) 関係者全員に共通認識、主体性を持たせるため、 関係機関や生産者代表等が同じ席で議論
イ 目標達成に向けた行動計画と役割分担の明確化	1) 産地目標達成に向け、必要な取組を「 もれなく 」リストアップし、「 いつ・どの機関の・誰が・何を 」やるのかといった行動計画を作成 2) 関係者の中で、 リーダー(進行管理役) を決め、 的確な進行管理 を実施
ウ 必要な設備・基盤の整備と活用促進	1) 目標達成に向け、施設や機械等の設備導入や基盤整備が必要な場合、 整備・利用計画を上記の行動計画に位置付け 2) 関係機関の役割分担のもと遅延なく整備が実現できるよう、 事業計画、利活用計画、営農計画 策定を支援 3) 既存の仕組みでの導入が難しい場合、 新たな予算措置や事業化 も検討
エ 重点経営体への技術・経営力向上支援	1) 経営体自身による 計数データの記録・振り返り 2) 技術指導とあわせて 経営・労務・工程管理指導 を重層的に支援 3) ソフト事業を活用した 専門家派遣 による課題解決
オ 関係機関一体となった支援体制の構築	1) 取組の必要性、重要性の理解醸成 を図るため、 管理者層がリーダーシップを発揮 し、関係機関・生産部会の役員と意見交換、説得を実施 2) 各機関において、当該業務に十分時間・労力を割けるような 人員配置、業務見直し を実施 3) 課題解決のための プロジェクトチーム設置等 、関係機関一体となった効果的な産地支援ができる体制の構築
カ 指導人材の育成	1) 資質及びモチベーション向上を図るため、 農業普及員とJA営農指導員合同で経営分析、産地分析、産地育成方法の研修 を実施 2) より実践的な能力を習得するため、 現地で産地分析・目標設定等 の支援活動を協働で実施

【2 留意事項】

他県事例毎の調査内容、産地支援等の詳細は、別途作成している試験研究成果書や報告書を参照してください。

【3 活用場面】

農業普及員等が、野菜産地支援の取組を行う際の参考となります。